



健康のかけはし

2007年
第2号



理事長・総院長
新井達潤

昨年8月1日付で赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

私にとりましては当センターがはじめての一般病院といえます。大学を卒業してすぐ2、3年の間香川県の田舎の病院に出ましたが、その後はずっと大学で過ごしましたし、また愛媛大学在任中も関連病院のほとんどが公的病院で、一般病院とのおつきあいは限られていました。

ながく大学にいたため第一線病院の医療水準を十分に知りませんでした。私がこの病院に来て驚いたのはその医療レベルの高いことです。産婦人科、泌尿器科、リウマチ科、乳腺外科、小児科等々、高い水準の医療を提供しています。いわゆるマイナーな科のがんばりが目立ち、大学の水準を凌駕している部門さえあります。

メジャー科のために申しますとこの規模の病院ではメジャー科は特徴を出しにくい。大規模病院ではメジャーには数十人の医師がいて、細かく専門に分かれ、それぞれが専門性を発揮できます。しかし当院の規模では数名の医師が全てを分担しなくてはならないためベーシックな疾患の対処に追われ、本当の専門性を発揮できないつらさがあります。

私は赴任の時のあいさつで、居心地のよい職場を作ろうと申しました。仕事はどの仕事でも毎日のくり返しで、必ずしも楽しいとは限りません。ときには単調で、また嫌になるときもあります。しかし職場が和気藹々としていれば互いがカバーし笑いの中に取り切ることができます。居心地のよい職場の基本は、自分の意見が素直に出て、聞いて貰えることです。これは自分の存在が認められることを意味します。一個の職業人として自己の存在が認められる環境、そのなかで人は成長します。

どんな時代になっても、人は石垣人は城、の言葉のとおり、組織は人で成り立ちます。私は、しかし、人は組織のために働くべきであるとは思っていません。そうではなく自分のために働くべきです。自身の成長が第一です。一人一人が真に良くなれば組織は必然的に良くなります。

当センターに赴任以来7ヶ月が過ぎました。私へ課せられた問題点も見えてきました。真っ直ぐに取り組みたいと思います。

基本方針

わたしたちは『医学の進歩は人間を幸せにするためのものである』という原点を忘れずに、人間愛と向上心に富み、地域の人々から信頼される医療を提供することを目指す。

理念

1. 地域の人々から信頼される特徴ある病院
2. 明るい職場で最良の医療を提供する病院
3. 常に夢をもって前進する高機能を有する病院
4. 患者様の人権と意思を尊重する病院

麻酔科 痛みの治療

痛みについて専門の先生に
相談してみませんか？



今回は、ペインクリニック
についてのお話です。



Anesthesiologists

ペインクリニック（麻酔科外来）では痛みの治療を専門に行っています。頭痛、顔面（三叉神経）痛、腰痛、肩こり、带状疱疹に伴う痛みから癌性疼痛など、なかなかよくなる痛みに対して神経ブロック療法を主体に痛みの治療を行っています。

この神経ブロック療法とは、痛みの部位に応じてブロックする神経を決め、局所麻酔薬を注入して神経の伝達を遮断し痛みを感じさせなくする方法です。

痛みは知覚神経を通して脳に伝わりますが、一部は脊髄の反射経路を経て交感神経や運動神経を興奮させ血管や筋肉の攣縮をもたらします。これが局所の血流不足と代謝物質の蓄積を招き、それがさらなる痛みの原因となって痛みが増幅されていきます。つまり痛み自体が痛みの治りを妨げ悪化させているわけです。

神経ブロック療法は知覚神経を遮断して確実に痛みを止め、それと同時に交感神経も遮断することで局所の血流増加をもたらしてこの痛みの悪循環を絶ちきります。慢性的な肩こりや腰痛がブロックを繰り返すことで次第に楽になっていくのはそのためです。



麻酔科部長
岡田昌平



ペインクリニックでよく相談を受ける疾患の中に带状疱疹後神経痛があります。带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルスにより起こるもので、子どもの頃にかかった水疱瘡の後でもウイルスが神経節に潜んでいて、体調を崩した際に活性化し神経に沿って増殖して顔面（ひたい）や胸部の皮膚表面に带状の疱疹・水疱を来す病気です。ウイルスが神経を蝕むように増殖するため非常に強い痛みを伴います。通常は抗ウイルス薬を投与して2～3週間の経過で治りますが、ときにその後も痛みだけを残してしまう場合があります。発症後6ヶ月以上経過しても痛みが消えないものを带状疱疹後神経痛と言い、この状態になるといかなる治療を行っても完全に痛みを消すことは非常に困難となります。

大切なのは带状疱疹後神経痛にならない事で、痛みの強い急性期に積極的に痛みの治療を行って神経痛への移行を予防することです。発症後できるだけ早期に、遅くとも1ヶ月以内に神経ブロックを受けることで带状疱疹後神経痛を回避できるといわれています。この神経痛は高齢になるほど来しやすく、特にお年を召された方は痛みの治療も同時に受けられることをお勧めします。

しかし残念にも带状疱疹後神経痛に至ってしまった場合や、その他、通常の治療では痛みがとりきれない慢性痛や癌性疼痛に対しても薬物治療や神経ブロック療法を駆使して多面的に治療に当たっています。

さらに神経ブロック療法は痛みの疾患以外にも顔面神経麻痺や突発性難聴などにも有効とされています。

以上のような病気や痛みでお困りの方は、是非一度ペインクリニックにご相談下さい。





MSW (メディカルソーシャルワーカー) 「医療福祉相談室の役割と相談方法について」

MSW

医療福祉相談室ではどんな相談ができるの？

心理的・社会的・経済的問題を持つ患者様・ご家族が安心して治療に専念できるよう、生活上の不安・心配などの問題を共に考え、社会福祉の立場から援助する専門職です。(社会福祉士)



MSW

医療ソーシャルワーカーってどんな人なの？

医療福祉相談室では現在3名の医療ソーシャルワーカーがご相談をお受けしております。相談内容としては、突然の病気や怪我によって生じる問題で今後の生活をどうしたらよいか分からない、医療費や生活費の心配がある、退院後の生活について心配である、医療保険・年金・福祉サービスについて知りたい、利用できる病院や施設を紹介してほしい、病気や障害を抱えながらの仕事や学校、家庭生活に不安がある等、様々な相談があります。

そのような状況の中で、患者様やご家族がこれから先の生活に視点が向けられるような援助をさせていただくことを使命としております。



どうやって相談すればいいの？

医師、看護師、受付にお申し出ください。相談料は一切かかりません。

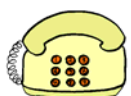
相談時間



月曜日 ~ 金曜日 8:30 ~ 17:30

緊急の場合はこの限りではありません できれば事前にご連絡ください

連絡先



Tel ; 086-422-2111 (代表) 内線1172

E-mail ; m-s-w@fkmc.or.jp

今後も患者様・ご家族に対し、人権の意思と尊重という視点に立ち、安心して治療や療養に専念できるよう、妨げになる生活上の問題の軽減・解決に向けて一生懸命努めさせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



緑の潤いを
ほっとする空間をめざして



**Kurashiki
Medical
Center**

財団法人 倉敷成人病センター

〒710-8522 岡山県倉敷市白楽町250
TEL:(086)422-2111 FAX:(086)422-4150
<http://www.fkmc.or.jp>
info@fkmc.or.jp